

よって、  
原発の運転は  
許されない。



# 原発をとめる裁判長

そして原発をとめる農家たち

樋口英明(元裁判長) 河合弘之(弁護士)

近藤恵(二本松菅農ソーラー) 飯田哲也(環境学者)

監督 脚本・小原浩博(日本人のそれらのフリップと中国の残留汚染)  
企画・製作 河合弘之(日本と原発) 日本と再生

音楽 吉野裕司

主題歌「素直な戦士」歌・白崎映美

2022年 日本タワラシヒタ

51分 / 99分 製作プロダクション

© KAWASAKI PRODUCTIONS

◆映画と講演◆  
「能登半島地震から考える原発の危険性」  
話し手：松久保肇さん  
(原子力資料情報室 事務局長)

『日本と原発』『日本と再生』のスタッフ再集結！不屈の魂と新たな希望の誕生。





環境問題を原子力発電所の  
運転継続の根拠とすることは  
甚だしい筋違いである。

福井地方裁判所民事第2部  
裁判長裁判官 樋口 英明



# 我が国の原発の耐震性は極めて低い。

原子力発電の危険性を伝えるために人生をかける元裁判長。  
放射能被災で一度はあきらめた農業を太陽光発電とともに蘇らせる福島の人々。  
使命をもった者たちの意思がスクリーンにみなぎる!!

2014年、関西電力大飯原発の運転停止命令を下した樋口英明・福井地裁元裁判長は、定年退官を機に日本のすべての原発に共通する危険性を社会に説く活動をはじめた。それは、原発が日本で頻発する地震に耐えられない構造であることを指摘するシンプルかつ、誰もが分かる揺るぎない“樋口理論”である。

そして、日本中の原発差止訴訟の先頭に立つ弁護士・河合弘之は、この“樋口理論”をもって新たな裁判を開始した。逆襲弁護士の異名をとる河合と元裁判長・樋口がタッグを組んで挑む訴訟の行方はいかに!



一方、被災地福島では放射能汚染によって一度は生業を離れた農業者・近藤<sup>せい</sup>恵が農地上で太陽光発電するソーラーシェアリングに農業復活の道を見出す。近藤は、反骨の環境学者・飯田哲也の協力を得て東京ドームの面積を超える日本最大級の営農型太陽光発電農場を始動させる! 福島で太陽光発電農業を実践する農業者たちは口々に言う、「原発をとめるために!」と。脱原発への確かな理論と実践、被災から立ち上がる不屈の魂、そして若き農業者たちのふるさとへの思い——。原発事故11年目の今、エネルギー映画の決定版が誕生した!

2024年6月7日(金) 14:00 (開場13:40)

町田市民フォーラム・ホール (定員188人・予約優先)

14:00~15:35 ドキュメンタリー映画「原発をとめた裁判長」

15:45~16:30 講演「能登半島地震から考える原発の危険性」

前売り: 1000円 当日: 1200円 学生: 500円

予約先: 070-5568-3311

cam16420@pop07.odn.ne.jp

主催: 原発事故を考える町田市民の会

2024年能登半島地震では強い揺れと津波で多くの犠牲者と避難者が出ました。道路は寸断され、港も使えず、支援もままならないさまを私たちは目の当たりにしました。現在停止中の志賀原発も地震で多くの損傷が発生しました。能登半島にはもう一つ原発計画がありました。珠洲原発です。今回の震源そばに計画されていました。志賀原発で事故が起きていたら、珠洲原発が運転していたらどうなっていたでしょうか。避難はできるのでしょうか。

松久保肇さん

市民フォーラムアクセス



予約メールアドレス

